

『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』 二〇一二年東京都九区調査の概要

稲葉陽 二

はじめに

筆者は二〇一二年九月初旬から一〇月初旬にかけ、郵送法により『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』を実施した。本調査は信頼、規範、ネットワークなどの社会関係資本を調査対象としている。東京都九区の二〇歳から七九歳までの住民を母集団として、下町三区（足立、葛飾、江戸川）、都心三区（千代田、中央、港）、山の手三区（目黒、世田谷、杉並）計九区

の住民基本台帳から無作為に一、五〇〇名を抽出して調査票を郵送し、四五八票の有効回答（回答率三〇・五％）を得た。本稿ではその概要を紹介するとともに、個票データによる調査項目間の相関、二〇一〇年に同内容の質問票により全国を対象に実施したアンケート調査（N＝一、五九九）との比較、および上記の東京の下町、都心、山の手三地区の比較を行う^②。

1. 二〇一二年東京都九区郵送法調査の概要

1-1 調査目的と設問^③

〔目的〕

外部性を伴う信頼・規範・ネットワークである社会関係資本を、一般的信頼、特定化信頼、ネットワーク(つきあい・社会参加)の観点から明らかにする。あわせて、社会関係資本と健康(主観的健康、生活での積極性^④抑うつ度)との関連を検証する。社会関係資本には一般的信頼など認知的なものと、社会交流・社会参加の側面からみたネットワークなどの構造的なものに分かれるが、本調査はその双方を調査対象としている。

〔調査内容・設問〕

1. 他人への信頼、
2. 互酬性、
3. 日常的なつきあい、
4. 地域での活動状況と活動参加者の同質性、
5. 生活の満足度・心配事、
6. 特定化信頼、
7. 主観的健康と生活での積極性(抑うつ度)、
8. 寄付・募金活動、
9. 腐敗行為に対する許容度、
10. 回答者の属性

なお、調査票を付属資料として本稿の最後に掲載しているので、あわせて参照されたい。

1-2 調査・実施主体

日本大学法学部 稲葉陽二研究室

アンケートの実施は社団法人新情報センターに委託

1-3 調査関連期間

調査票の検討 二〇一二年四月～八月

調査実施期間 二〇一二年九月一日～一〇月一九日

1-4 調査方法

無作為抽出郵送法(配付・回収とも)

1-5 母集団と調査対象者、対象者のサンプリング方法

〔母集団〕東京都九区(足立、葛飾、江戸川、千代田、中央、港、目黒、世田谷、杉並)の二〇才から七九才の居住者

〔対象者〕東京都九区における居住者一、五〇〇名

法 「サンプリング方法」住民基本台帳からの無作為抽出

1-1-6 調査配票数・回収数・回収率

〔配票数〕 一、五〇〇票

〔回収数〕 四五八票（無効票なし）

〔有効回収数〕 三〇・五%（四五八票／一、五〇〇票）

1-1-7 調査実施メンバー

研究代表者 稲葉陽二、研究協力者 緒方淳子、調査実施と回答の入力は社団法人新情報センターに委託

1-1-8 記述統計量と回答者の属性

2. 調査結果の概要

表2は集計値からみた本調査の結果を示している。本調査の質問票は、内閣府が二〇〇三年と二〇〇五年に実施した調査（主査はともに大阪大学山内直人教授、株式会社日本総研へ委託）で用いたものをベースとしているが、一般的互酬性・特定化互酬性⁵⁾、主観的健康と生活で

の積極性（抑うつ度）、寄付・募金活動、腐敗行為に対する許容度を新たに加えている。主観的健康と生活での積極性（抑うつ度）に関する問いは、東京都健康長寿医療センター研究所（東京都老人総合研究所）の倫理委員会の承認を得た形式を用いている。

なお、表2には二〇一二年調査以外に過去に筆者が郵送法で実施した三つの調査、①二〇〇八年長野県須坂市の協力を得て行った同市での郵送法調査、②二〇〇九年徳島県上勝町で上勝町診療所と共同で実施した郵送法調査、③二〇一〇年全国郵送法調査の結果概要も掲載してある。

東京都調査の集計値をみると、認知的な社会関係資本の指標である「一般的信頼」では「ほとんどの人は信頼できる」（九段階評価の上位三段階合計）が二五・四%であるが、もう少し対象を絞った「旅先での信頼」（九段階評価の上位三段階合計）はそれより低く二〇・三%となっている。

このほか認知的な信頼でも対象をより具体的にした特定化信頼では、家族への信頼（「頼りになる」以下同じ）が八四・一%と際立って高いが、友人・知人への信頼も

表1 記述統計量 回答者の属性

	N	平均・構成比 (%)	標準偏差ほか	範囲
性別				
男性	205	44.8		
女性	253	55.2		
年齢	458	49.26歳	15.817	20-79
職業				
自営業	70	15.3		
経営者	24	5.2		
民間勤め人	151	32.9	最頻値	
公務員・教員	22	4.8		
パート	63	13.8		
学生	11	2.4		
無職	43	9.4		
専業主婦・主夫	61	13.3		
居住形態				
持ち家	254	55.5		
借家	196	42.8		
居住年数	449	20.3年	18.113	0-71
同居人の数				
単身	102	22.3		
同居人あり	349	76.2		
最終学歴				
小中学校	21	4.6		
高等学校	133	29.0		
専修学校ほか	61	13.3	中位値	
高専・短大	57	12.4		
大学	151	33.0	最頻値	
大学院	27	5.9		
世帯年収				
200万円未満	36	7.9		
200～400万円未満	104	22.7	最頻値	
400～600万円未満	82	17.9	中位値	
600～800万円未満	53	11.6		
800～1,000万円未満	48	10.5		
1,000～1,200万円未満	35	7.6		
1,200万円以上	49	10.7		

表 2 調査結果（集計値）の概要

調査名 (調査年)	設 問	一般的な信頼			特定化信頼			ネットワーク：つきあい						ネットワーク：社会参加		
		一般的な 信頼	旅先での 信頼	近所の 人々への 信頼	家族への 信頼	親戚への 信頼	友人・ 知人への 信頼	職場の同 僚への信 頼	近所づき あいの程 度	近所づき あいの人 数	友人・知人 とのつきあ い頻度	親戚との つきあい 頻度	職場の同僚 とのつきあ い頻度	地縁活動 参加して いる	スポーツ・ 趣味・ 娯楽活動 参加して いる	ボランティア・ NPO・ 市民活動 参加して いる
東京都 9 区調査	458	25.4%	20.3%	25.9%	84.1%	54.4%	67.9%	34.5%	44.9%	45.6%	48.7%	27.1%	26.0%	28.6%	42.6%	18.1%
全国郵送 (2010年)	1599	27.9%	21.3%	40.5%	89.1%	66.7%	69.7%	36.5%	60.4%	59.5%	49.2%	38.0%	22.1%	46.1%	46.7%	25.3%
全国調査 との比較		-2.5%	-1.0%	-14.6%	-5.0%	-12.3%	-1.8%	-2.0%	-15.5%	-13.9%	-0.5%	-10.9%	3.9%	-17.5%	-4.1%	-7.2%
参 考																
下 町 3 区	150	22.6%	20.0%	27.3%	83.3%	50.0%	59.4%	30.0%	46.0%	45.3%	38.0%	19.4%	23.4%	28.7%	38.7%	15.3%
都 心 3 区	157	31.2%	24.8%	21.7%	85.3%	49.7%	75.1%	44.6%	42.1%	47.7%	54.8%	31.2%	30.0%	33.8%	42.0%	21.0%
山の手 3 区	150	21.4%	15.4%	28.7%	83.3%	64.0%	69.3%	28.7%	47.3%	44.0%	53.3%	30.7%	24.7%	23.3%	47.3%	18.0%
上勝町 (2009年)	632	25.2%	13.3%	74.2%	93.4%	83.0%	72.8%	46.7%	81.6%	75.6%	59.5%	41.3%	28.2%	51.6%	30.9%	36.0%
須坂市 (2008年)	601	33.8%	22.0%	48.4%	88.7%	71.9%	68.7%	31.9%	72.7%	72.4%	54.1%	39.6%	20.5%	53.2%	46.9%	27.3%

全国郵送 (2003年) は内閣府公民生活局調査、全国郵送 (2010) は稲葉調査
 上勝町 (2009年) は稲葉・上勝町診療所共同調査
 須坂市 (2008年) は稲葉・須坂市共同調査

六七・九%と極めて高い。同様に親戚への信頼も五四・四%と高い。ただ、職場の同僚への信頼は友人・知人の約半分の三四・五%となっている。

また、構造的な社会関係資本であるネットワークの代理変数としての社会参加・社会交流について、地縁的活動への参加率二八・六%、スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率四二・六%、ボランティア・NPO・市民活動への参加率一八・一%となっている。社会交流については、隣近所とのつきあいについては「生活面で協力」と「日常的に立ち話」の合計の比率が四四・九%、「つきあっている人数が概ね五人以上」がやはり四五・六%、つまり回答者の四割強は近所づきあいの程度も高く人数も五人以上とのつきあいがあるが、近所の住民については「ほとんど信頼できる」と答えた比率は二五・九%と、つきあいの程度や人数の割には高くない。

また、友人・知人とのつきあいも「日常的にある（毎日～週に数回程度）」と「ある程度頻繁にある（週に一回～月に数回程度）」の合計が四八・七%と約半数の人が週に一回以上友人・知人とのつきあいをもっている。このほか、職場以外での職場の同僚とのつきあいも、「日

常的にある（毎日～週に数回程度）」と「ある程度頻繁にある（週に一回～月に数回程度）」が二六・〇%と約四人に一人が週一回以上職場外で職場の同僚とのつきあいがある。同様に親戚・親類と週一回以上のつきあいがある者は二七・一%である。

このほか本調査では、社会関係資本の関連項目として互酬性、回答者が参加している活動が橋渡し型と結束型か、利他性（寄付・募金活動）、不正行為への許容度、また社会関係資本が影響を及ぼすと考えられる生活満足度、一七項目にわたる日常生活での問題や心配事、主観的健康（四段階評価）と生活での積極性（抑うつ度・高齢者向け Geriatric Depression Scale 一五項目短縮版）についても尋ねている。

たとえば、「人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けしてくれるように世の中はできている」という一般的互酬性については、一七・三%つまり四人に一人が肯定的に答えており、「人を助ければ、いずれその人から助けってもらえると思う」という特定化互酬性については、一七・七%が肯定的に答えている。寄付・募金については回答者の六五・九%、ほぼ三人に二人が

何らかの寄付を行っている。このほか、不正行為の許容度については「脱税」と「公共交通機関の料金をごまかす」ことや「収賄」については、それぞれ回答者の九四・五%、九二・六%、九二・八%が認められない（一〇段階評価の認められない上位三段階合計）と大変厳しい態度であるのに対し、「資格がないのに国の年金や医療給付などを要求する」について認められない（一〇段階評価の認められない上位三段階合計）は八六・九%と他の三項目と比べて若干寛容である。

生活満足については「非常に満足」と「満足している」の合計は四九・八%と半数が満足している。心配事のなかでは、生活上の孤立を「かなり心配」「少し心配」と答えた者は二五・八%、つまり四人に一人の比率となっている。

主観的健康は回答者の将来の健康状態の予測力が高いことが知られているが、本調査では「とても健康」一一・二%、「まあ健康」六七・五%と合計七八・六%が健康と答えている。生活での積極性（抑うつ度）については、一五項目のうち六個以上の否定的回答をした者の比率は三一・九%とほぼ三人に一人の割合になっており、

否定的回答数が一〇を超えた者の比率も一〇・九%と九人に一人に達している。⁶⁾

3. 全国調査との比較

3-1 集計値の比較

集計値でみる限り、東京都九区調査は「職場の同僚とのつきあいの頻度」を除き、表2に示されるすべての項目で二〇一〇年全国調査を下回っている。特に近所づきあいが希薄であり、かつ地縁的活動やボランティア・NPOなどの団体参加率も低い。すなわち、一般的信頼、友人・知人への特定化信頼、および職場の同僚とつきあいの頻度は、全国平均とほぼ同水準であるが、近所づきあいの程度（「協力」＋「立ち話」の比率）が、全国の六〇・四%に対し、東京は四四・九%と一五・五%ポイント下回っているし、近所の人々への信頼について「頼りになる」とする比率が全国の四〇・五%に対し、東京は二五・九%と一四・六%ポイントも低い。また、地縁的活動とボランティア・NPOなどの活動への参加率も、それぞれ全国の四六・二%、一五・三%に対し、東京は二八・六%、一八・一%にとどまっている。

3-1-2 一般的信頼との相関

一般的信頼と他の調査項目との間の偏相関（制御変数・性別、最終学歴、年間収入）をみると、表3に示されるとおり、東京都調査でも一般的信頼が多くの調査項目と統計的に有意に相関しているのがわかる。しかし、全国調査では一般的信頼とのあいだに相関がみられた社会参加のネットワーク（地縁的活動、ボランティア・NPOなど）については、東京都調査では統計的に有意な相関はみられなかった。東京都でみる限り、団体参加をしている者が一般的信頼が高いというわけではないことになる。

ただし、特定化信頼については一一項目すべてとの間に、全国調査同様、一般的信頼との間に統計的に有意な相関がみられ、かつ、市役所・町役場などへの信頼を除き、相関係数も東京のほうが全国よりも高い。特に勤務先、近所の人々、職場の同僚などに対する信頼は、全国調査の数値を○・一程度上回っている。つまり東京都の場合、一般的信頼の高い者は近所の人々、職場の同僚などへの信頼が、全国平均よりも篤い。

本調査では、自分の生活の満足度、心配事や健康関連

の質問項目も含まれている。生活の満足度は、全国調査と同様に東京都調査でも、統計的に有意に一般的信頼と相関がある。しかし、心配事に関しては、全国調査では一七項目すべてについて一般的信頼と有意な相関がみられるが、東京都調査では、有意な相関が観察されるのは、自分の健康・身体状況、家族の健康、家族（高齢者）の世話や介護、年収や家計、仕事上のストレス、職探しや就職、自分の将来の七項目のみである。つまり、一般的信頼は、東京都調査では、おもに健康や収入に関する項目とのみに相関がみられる。なお、将来の健康状態の最もよい代理変数といわれている主観的健康と抑うつ度はともに、全国調査でも東京都調査でも、一般的信頼と有意な相関がある。また、抑うつ度との相関係数が主観的健康とのそれよりも格段に高い点は、全国調査と同じである。つまり、東京都調査での相関係数は、主観的健康とは○・二三四であるが、抑うつ度とは○・二九と高い。

回答者の属性との相関は、年齢が高いほど、また、居住年数が長いほど、一般的信頼が高い（相関係数の符号はマイナス）。

表3 一般的信頼と他の質問項目との偏相関

制御変数：性別、最終学歴、年間収入

	2010全国調査	2012東京都9区調査
旅先・見知らぬ土地の人への信頼	0.65**	0.644**
特定化互酬性	設問なし	0.206**
一般的互酬性	設問なし	0.260**
隣近所とのつきあいの程度	0.176**	0.234**
隣近所でつきあっている人の数	0.172**	0.272**
友人・知人とのつきあいの頻度	0.165**	0.146**
親戚・親類とのつきあいの頻度	0.110**	0.118*
職場の同僚とのつきあいの頻度	0.134**	0.141*
地縁的な活動への参加	0.113**	-0.085
スポーツ・趣味・娯楽活動への参加	0.097**	-0.100*
ボランティア・NPO・市民活動への参加	0.126**	-0.056
その他の団体等活動への参加	0.085**	-0.054
自身の生活の満足度	0.181**	0.181**
心配事—自分の健康・身体状況	-0.097**	-0.124*
心配事—老後の自分の世話	-0.167**	-0.081
心配事—家族の健康	-0.127**	-0.142**
心配事—家族（高齢者）の世話や介護	-0.050	-0.116*
心配事—乳幼児期の子どもの子育て	-0.106**	-0.004
心配事—子や孫のしつけや教育	-0.059*	0.006
心配事—失業やリストラ	-0.116**	-0.045
心配事—年収や家計	-0.147**	-0.128**
心配事—仕事上のストレス	-0.177**	-0.132**
心配事—一定年後の人生設計	-0.122**	-0.066
心配事—職探しや就職	-0.104**	-0.128*
心配事—家庭内の人間関係	-0.155**	-0.084
心配事—近隣での人間関係	-0.146**	-0.011
心配事—近隣での住環境	-0.153**	-0.064
心配事—地域での非行や犯罪	-0.148**	-0.051
心配事—自分の将来	-0.174**	-0.215**
心配事—生活上の孤立	-0.161**	-0.091
心配事合計	-0.202**	0.031
特定化信頼—市役所・町役場等	0.127**	0.111*
特定化信頼—学校、病院等の公的機関等	0.130**	0.143**
特定化信頼—警察や交番等	0.140**	0.196**
特定化信頼—自治会などの地縁団体	0.151**	0.172**
特定化信頼—ボランティア・NPO・市民活動団体	0.114**	0.169**
特定化信頼—勤務先（会社等）	0.125**	0.220**
特定化信頼—近所の人々	0.168**	0.279**
特定化信頼—家族	0.147**	0.177**
特定化信頼—親戚	0.142**	0.184**
特定化信頼—友人・知人	0.163**	0.186**
特定化信頼—職場の同僚	0.144**	0.243**
主観的健康	0.151**	0.134**
抑うつ度（GDS15項目短縮版）	0.270**	0.290**
寄付・募金活動合計	0.111**	
許容度—年金・医療給付などの無資格受給	0.042	-0.046
許容度—公共交通機関の料金をごまかす	0.039	0.017
許容度—脱税	0.050	-0.007
許容度—取賄	0.076**	0.011
年齢	-0.111**	-0.174**
居住年数	-0.059*	-0.125**

有意確率：両側 **5%水準、*1%水準で有意

(出所) 2010年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』全国調査、2012年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』東京都9区調査

3-1-3 社会関係資本と健康

表4は、主観的健康と抑うつ度でみた健康と社会関係資本との偏相関（制御変数：性別、最終学歴、年間収入）をみている。全国調査、東京都調査ともに、社会関係資本の構成要素の多くが主観的健康と抑うつ度の両者と有意に相関している。ただし、主観的健康よりも抑うつ度との相関のほうが顕著である。表4は因果関係を示すものではないが、社会関係資本は心身両面で健康と深く結びついていることになる。しかし、主観的健康に関しては、近所との関係ではなく、家族、親戚、友人・知人への信頼がより重要である。特に、この傾向は全国よりも東京でより顕著である。また、抑うつ度に関しては、全国、東京ともに、表4にある社会関係資本の構成要素すべてと相関がある。社会関係資本は心の病とより深い関係がある。

また、全国と東京を比較すると、主観的健康については総じて同じパターンを示しているが、親戚への信頼に関する相関係数が全国〇・〇八八に対し、東京は〇・二二五と顕著に高く、東京では頼れる親戚がいる者のほうが主観的健康が高い。東京では、親戚のサポート

があるほうが病気にならない、ないしは罹病しても回復が早いかもしれない。

抑うつ度については、東京は全国と同じパターンを示しているが、いくつかの項目で相関係数に、明白な違いがみとれる。つまり、近所の人々への信頼（全国〇・二一八、東京〇・二六二）、親戚への信頼（全国〇・二二四、東京〇・三四九）、友人・知人への信頼（全国〇・二二九、東京〇・三四六）、職場の同僚への信頼（全国〇・二二一、東京〇・二二六）が、それぞれ東京のほうが大幅に高い。東京についてみれば、近所の人々、親戚、友人・知人、職場の同僚などへの信頼が高い人々は、より健康である。

それでは、主観的健康と抑うつ度との関係はどのようになっているだろうか。表5は主観的健康と現状認識とのクロス集計表であるが、全体の総数を一〇〇としていく。「とても健康+まあ健康」でかつ、抑うつ度調査で否定的回答が五以下の者は、全国調査で五七・八%、東京都調査で五八・五%とほぼ同じであり、東京のほうが特に健康であるというわけではない。しかし、「あまり健康ではない+健康ではない」でかつ、抑うつ度調査

表4 主観的健康／抑うつ度と社会関係資本項目との偏相関

制御変数：性別、最終学歴、年間収入

	2010全国調査		2012東京都9区調査	
	SRH	抑うつ度	SRH	抑うつ度
一般的信頼	0.143**	0.27**	0.134**	0.290**
一般的互酬性	設問なし	設問なし	0.097*	0.175**
特定化信頼—近所の人々	0.038	0.218**	0.075	0.262**
特定化信頼—家族	0.127**	0.267**	0.135**	0.231**
特定化信頼—親戚	0.088**	0.224**	0.215**	0.349**
特定化信頼—友人・知人	0.157**	0.229**	0.157**	0.346**
特定化信頼—職場の同僚	0.113**	0.211**	0.180**	0.326**
特定化互酬性	設問なし	設問なし	0.102*	0.127**
ネットワーク—隣近所とのつきあいの程度	0.018	0.242**	-0.012	0.190**
ネットワーク—隣近所ですつきあっている人の数	0.029	0.219**	-0.051	0.219**
ネットワーク—友人・知人とのつきあいの頻度	0.082**	0.188**	0.087	0.284**
ネットワーク—親戚・親類とのつきあいの頻度	0.014	0.142**	0.120**	0.168**
ネットワーク—職場の同僚とのつきあいの頻度	0.127**	0.158**	0.122*	0.200**
ネットワーク—地縁的な活動への参加	-0.016	-0.195**	-0.031	-0.202**
ネットワーク—スポーツ・趣味・娯楽活動への参加	-0.109**	-0.197**	-0.113*	-0.204**
ネットワーク—ボランティア・NPO・市民活動への参加	-0.026	-0.149**	0.026	-0.048

有意確率：両側 **1%水準、*5%水準で有意

(出所) 2010年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』全国調査および2012年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』東京都9区調査

表5 主観的健康と抑うつ度とのクロス集計

2010年全国調査 (N=1,566) と2012年東京都9区調査 (N=450) の比較 (%)

		抑うつ度否定的回答数累計		
		0～5	6～15	合計
主観的健康	とても健康 +まあまあ健康な方だ	全国 57.8 東京 58.5	全国 19.6 東京 21.6	全国 77.4 東京 80.0
	あまり健康ではない +健康ではない	全国 8.7 東京 9.1	全国 13.6 東京 10.9	全国 22.6 東京 20.0
	合計	全国 66.8 東京 67.5	全国 33.2 東京 32.5	100

で否定的回答が六以上の者は、全国調査で一三・六%、東京都調査で一〇・九%と東京のほうが低い。身体と心の健康の双方に問題がある者の比率は、全国では七人強に一人に対し、東京では一人に一人と少ない。これは、主観的健康で「とても健康+まあまあ健康」としているが、抑うつ度調査では六以上の者が東京では調査対象全体の二一・六% (四・六人に一人) と、全国の一・九・六% (五・一人に一人) より上回っていることによる。つまり、身体的には健康と感じている者も、抑うつ度が高い者の比率が東京では多い。

それでは、「あまり健康ではない+健康ではない」でかつ、抑うつ度調査で否定的回答が六以上の者は、どのようなプロフィールをもっているのだろうか。表6は健康でないグループと健康なグループ、それぞれの社会関係資本の構成要素と回答者の属性の平均値を比較している。表から明らかのように、健康なグループは、高学歴、高収入、持家、独居でなく、比較的若く、女性が多い。また、社会関係資本についていえば、ボランティア・NPOへの参加以外は、すべての構成要素で健康でないグループのそれを上回っている。つまり、健康なグ

表6 健康な人と健康でない人のプロフィール比較

	東京都平均 (N=458)	SRH / DP ともに良 (N=263)	SRH / DP ともに不良 (N=49)	備 考
一般的信頼	5.05	4.62	6.06	9点尺度高いほど信頼しない
一般的互酬性	2.06	2.00	2.22	3点尺度高いほど互酬性が低い
特定化信頼—近所の人々	3.24	3.1	3.67	5点尺度高いほど信頼しない
特定化信頼—家族	1.77	1.65	2.14	同上
特定化信頼—親戚	2.64	2.45	3.53	同上
特定化信頼—友人・知人	2.26	2.10	2.82	同上
特定化信頼—職場の同僚	3.01	2.79	3.48	同上
特定化互酬性	2.19	2.39	2.14	3点尺度高いほど互酬性が低い
ネットワーク—隣近所とのつきあいの程度	2.51	2.43	2.61	4点尺度高いほどつきあいが無い
ネットワーク—隣近所でつきあっている人の数	2.60	2.52	2.69	同上
ネットワーク—友人・知人とのつきあいの頻度	2.48	2.33	2.78	5点尺度高いほどつきあいが無い
ネットワーク—親戚・親類とのつきあいの頻度	2.93	2.87	3.16	同上
ネットワーク—職場の同僚とのつきあいの頻度	3.16	2.99	3.42	同上
ネットワーク—地縁的な活動への参加	0.57	0.72	0.45	7点尺度高いほど参加度が高い
ネットワーク—スポーツ・趣味・娯楽活動への参加	1.43	1.69	0.40	同上
ネットワーク—ボランティア・NPO・市民活動への参加	0.40	0.46	0.53	同上
性別	1.55	1.59	1.51	1 = 男性、2 = 女性
年齢	49.26	49.13	50.04	歳
職業	4.69	4.65	4.84	10点尺度低いほど安定
居住形態	2.43	2.34	2.59	8 尺度低いほど持家
居住年数	20.31	21.03	21.81	年
同居人の有無	1.33	1.36	1.25	1 = 1 人暮らし、2 = 同居人あり
最終学歴	3.59	3.68	3.27	7 点尺度高いほど高学歴
世帯収入	4.01	4.14	3.80	8 点尺度高いほど高収入

ループは社会関係資本も豊かである。

3-4 地縁的な活動とボランティア・NPO活動との相関

Putnam (2000) は社会関係資本についてボンディングな社会関係資本とブリッジングな社会関係資本に分類した。Putnamによれば、ボンディングな社会関係資本とは地縁組織や同窓会などそれぞれのバックグラウンドを共有するもの同士の関係を意味しており、ブリッジングな社会関係資本は、それぞれのバックグラウンドが異なっても同じ目的のために集まるNPOのメンバー間のように、バックグラウンドを異にするもの同士の関係を意味している。今回の調査では、ボンディングな社会関係資本の代理変数として自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会などの「地縁的な活動」への参加頻度を尋ねている。また、ブリッジングな社会関係資本の代理変数としてまちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力、提言活動などのボランティア・NPO・市民活動への参加頻度を尋ねている。

Putnam (2000, pp.22-24) によれば、ボンディングな社会関係資本はグループ内メンバーの規律の維持などには有効だが、外部から新たな知識やノウハウなどを取り入れるのは不向きといわれている。一方、ブリッジングな社会関係資本は反対に規律の維持には向いていないが、あらたな知識やノウハウなどを取り入れるには有効であるといわれている。

本調査と二〇一〇年全国調査とを比較すると、団体参加率は地縁的活動が東京二九・一%、全国平均四八・三%、ボランティア・NPO・市民活動が東京一九・一%、全国平均二七・二%と、東京九区における参加率がともに全国平均よりも大幅に低い⁷⁾。つまり、全国ではほぼ二人に一人が何らかの地縁的活動に参加しているのに対し、東京では三人に一人弱の参加率にとどまっている。また、ボランティア・NPOなどへの参加率は全国平均が四人に一人強であるのに対し、東京は五人に一人弱にとどまっている。この結果、地縁的活動とボランティア・NPOなどの両方に参加している者の比率は、全国では三・七人に一人なのに対し、東京では五・二人に一人と参加率が大幅に低い。逆に、両者のいずれにも参加してい

表7 団体活動参加に関するクロス集計表

2010全国調査 (N=1,407) と2012年東京都9区調査 (N=429) の比較 (%)

		ボランティア・NPO・市民活動		
地縁的活動		参加なし	参加あり	合計
	参加なし	全国 46.8 東京 64.8	全国 4.8 東京 6.1	全国 51.7 東京 70.9
	参加あり	全国 25.9 東京 16.1	全国 22.4 東京 13.1	全国 48.3 東京 29.1
	合計	全国 72.8 東京 80.9	全国 27.2 東京 19.1	100

ない者の比率は、全国では四六・八%であるが、東京では六四・八%に上っている。

基本的に地縁的活動をしている者はボランティア・NPO・市民活動にも携わっている可能性が高い。表7に示すとおり、全国調査では、地縁的活動に参加している者の四六・二%がボランティア・NPO・市民活動にも参加しており、逆にボランティア・NPO・市民活動の参加者の八二・二%が地縁的活動にも参加している。つまり、ボランティア・NPO・市民活動参加者のほとんどは地縁的活動経験者ということになる。また、地縁的活動に参加していない者は九割がボランティア・NPO・市民活動にも参加していない。また、地縁的活動への参加頻度とボランティア・NPO・市民活動への参加頻度との相関は〇・四五九と比較的高く、また一%水準(両側)で有意である。この傾向は、参加率自体は低いが東京でもみとれる。すでにみたとおり、全国調査でみるとボランティア・NPOなどの活動をしている者の八割以上(表7の22.4%÷27.2%=0.824)が地縁的活動にも参加しているが、東京ではこの比率は六八・五%(13.1%÷19.1%=0.685)と全国よりも一四%ポイント

下回っている。ただし、全国でも東京でもボランティア・NPOなどの活動をしている者のうち、全国で八割、東京でほぼ七割は地縁的活動にも参加しているから、地縁的活動がボランティア・NPO活動の基盤となつている状況がうかがわれる。因果関係は定かではないが、地縁的活動がボランティア・NPO・市民活動の基盤にあるようにみえる。

4. 東京都調査にみる三地区（下町三区、都心三区、山の手三区）の比較

東京都九区調査では、下町三区、都心三区、山の手三区からそれぞれ一五〇票、一五七票、一五〇票の回答を得ている。母集団推計には十分な標本数ではないが、参考データとして三地区の個性をうかがい知ることができらるだろう。

4-1-1 回答者属性

三地区の回答者の属性をみると（表8）、三地区間には大きな違いがみられる。回答者の中心は三地区いずれも四〇歳代であるが、平均年齢は下町三区が五〇・五才

と一番高く、都心三区が四七・五歳と一番低く、山の手三区が四九・七歳と両者の中間となっている。しかも、都心三区の最頻値は三〇歳代と若い。しかし、都心三区の回答者の平均年齢が一番低いにもかかわらず、所得は都心三区が際立って高い。都心三区の所得中央値は六〇〇万円以上〜八〇〇万円未満の階層であり、山の手三区と下町三区のそれ（四〇〇万円以上〜六〇〇万円未満）を上回っており、最頻値は一、二〇〇万円以上である。かつ、実に都心三区の回答者の五人に一人が一、二〇〇万円以上の所得階層に属すると回答している。これは、他の二地区の最頻値が二〇〇万円以上〜四〇〇万円未満であることと際立った対照を示している。

これは、都心三区の回答者が大卒と大学院卒が過半を占めているのに対し、山の手三区は高専・短大と大卒、下町三区が高卒と専門学校卒がそれぞれ過半を占めていること、その結果として自営業者、経営者、民間勤め人、公務員・教員といった安定した職業の比率が都心三区は七割近く（六八・一％）に達し、山の手三区の六割弱（五七・三％）、下町三区の五割弱（四九・三％）を大きく超えていることによるものと思われる。つまり、都心三

表8 2012年東京9区調査における回答者の地区別属性

回答者属性	郵送法調査				
	2010 (全国)	2010 (東京9区)	(下町3区)	(都心3区)	(山の手3区)
性別 (%)					
男性	45.3	44.8	42.7	45.9	45.3
女性	54.7	55.2	57.3	54.1	54.7
年齢構成比 (%)					
20歳代	11.4	13.1	12.7	15.3	11.3
30歳代	16.4	18.6	15.3	21.7 最頻値	18.7
40歳代	16.7	21.4 中央値	20.7 中央値	19.7 中央値	24.0 中央値・最頻値
50歳代	17.3 中央値	14.6	15.3	17.1	11.3
60歳代	23.3	20.3	22.7 最頻値	15.3	23.3
70歳以上	14.8	12.0	13.3	10.8	11.3
平均年齢 (才)	51.4	49.2	50.5	47.5	49.7
職業 (%)					
自営業	12.4	15.3	13.3	21.0	11.3
経営者	2.8	5.2	2.0	5.7	8.0
民間勤め人	27.6	32.9	29.3	35.0	34.7
公務員・教員	4.8	4.8	4.7	6.4	3.3
(同上小計)	(47.6)	(58.2)	(49.3)	(68.1)	(57.3)
パート	15.5	13.8	16.0	10.8	14.7
学生	2.3	2.4	0.7	3.2	3.3
無職	13.4	9.4	13.3	4.6	10.0
専業主婦・夫	17.9	13.3	19.3	10.2	10.7
最終学歴 (%)					
小中学校	11.5	4.6	5.3	3.2	4.7
高等学校	39.1 最頻値・中央値	29.0	44.7 最頻値・中央値	15.9	27.3
専修学校他	10.8	13.3	16.0	15.3	8.7
高専・短大	11.1	12.4 中央値	11.3	13.4	12.7 中央値
大学	23.5	33.0 最頻値	20.0	40.8 最頻値・中央値	38.0 最頻値
大学院	2.3	5.9	1.3	11.5	4.7
世帯年収 (万円)					
<200	8.1	7.9	13.3	4.6	6.0
200~400<	22.1 最頻値	22.7 最頻値	24.0 最頻値	15.3	28.7 最頻値
400~600<	19.9 中央値	17.9 中央値	22.0 中央値	17.2	14.7 中央値
600~800<	13.7	11.6	14.0	10.2 中央値	10.7
800~1,000<	10.1	10.5	10.0	13.4	8.0
1,000~1,200<	4.9	7.6	4.0	10.8	8.0
1,200≤	6.3	10.7	3.3	19.7 最頻値	8.7
居住形態 (%)					
持家	79.4	55.5	57.3	52.2	56.7
借家	19.0	42.8	40.7	47.8	40.0

区の回答者は比較的若い、学歴が高く、高所得である。一方、下町三区の回答者は壮年期から高齢者層が多く、学歴は高卒が中心で所得も都心三区よりも低い。また、山の手は両者の中間に位置しているが、所得でみる限り、下町三区に近似している。

4-1-2 地区別にみた社会関係資本の相違

社会関係資本の主要項目を三地区別に比較すると、本稿の前半に掲げた表2に示されるように、都心三区の高水準が目立つ。特に、一般的信頼、互酬性、特定化信頼のなかの友人・知人への信頼と職場の同僚への信頼、ネットワークとしての友人・知人とのつきあい頻度などは、二〇一〇年全国調査の平均と比較しても高水準であり、そのほか、ネットワークとしての地縁的活動参加率、ボランティア・NPO・市民活動への参加率も、下町三区と山の手三区よりも高い。都心三区は認知的な社会関係資本に關していえば、極めて高い水準にあるし、構造的な社会関係資本でも地縁的活動やボランティア・NPO活動などは活発である。ただし、同じ表2に示してあるように、上勝町や須坂市などのコミュニティ内の結束

が固い地域は、通常、近所の人々や家族、親戚への信頼とつきあいが高水準であるのに対し、都心三区は家族への信頼を除き、近所の人々への信頼、親戚への信頼、近所づきあいの程度などは比較的希薄である。これらの項目についていえば、むしろ山の手三区のほうが高水準である。

全国調査と東京都調査の比較をした際に、主観的健康と抑うつ度とのクロス集計（表5）と、地縁的な活動とボランティア・NPOなどへの活動とのクロス集計（表7）をみたが、東京三地区間ではどのような違いがあるだろうか。表9は、表5で示した主観的健康と抑うつ度とのクロス集計を東京都の三地区別に行ったものである。表9に示されるように、心身ともに良好な（表9で左上の）グループの比率は、三地区の間で大きな差がみられる。都心三区の六三・九%が最も良好で、下町三区の五三・四%を一〇%ポイント近くも引き離しており、山の手三区はその中間の五八・一%となっている。逆に、心身ともに不良な（表9の真ん中）グループの比率は、三地区間では下町一〇・二%が一番低く、都心一一・六%が一番高い。つまり、下町三区では心身共に問題がある

表9 主観的健康と抑うつ度とのクロス集計
2012年東京都9区調査地区別の比較 (%)

	抑うつ度否定的回答数累計			
	0～5	6～15	合計	
主観的健康	とても健康 +まあまあ健康な方だ	下町 53.4 都心 63.9 山手 58.1	下町 24.7 都心 20.0 山手 20.3	下町 78.1 都心 83.9 山手 78.4
	あまり健康ではない +健康ではない	下町 11.7 都心 4.5 山手 10.8	下町 10.2 都心 11.6 山手 10.8	下町 21.9 都心 16.1 山手 21.6
	合計	下町 65.1 都心 68.4 山手 68.9	下町 34.9 都心 31.6 山手 31.1	100

者は他の二地区と比して少ないが、心か身体のどちらかに問題があるとした回答の比率が、下町では高い。いずれにせよ、健康面からみれば、都心三区は下町三区より健康であり、山の手はその中間に位置している。ただ、下町三区では心と身体の両面で問題がある者の比率は、都心三区と山の手三区よりも若干低い。

表7でみた団体活動参加に関するクロス集計表では、全国と東京都九区との間には大きな差がみられたが、表10に示されるように、東京九区調査のなかでも三区の間に違いがみられる。すなわち、団体参加率では都心三区が地縁的活動への参加率(三三・三%)とボランティア・NPO等への参加率(二二・〇%)双方で他の二地区より高い。さらに、ボランティア・NPOなどの参加者で、地縁的活動にも参加している者の比率は、下町で七二・八%(表10の11.8/16.2=0.728)、都心で七二・七%(同16.0/22.0=0.727)と七割を超えているが、山の手では五九・五%(同11.3/19.0=0.595)にとどまっている。逆に、地縁的活動参加者で、ボランティア・NPOなどにも参加している者の比率は、下町で四〇・一%(表10の11.8/29.4=0.401)と低く、都心で四八・一%(同16.0

表10 地縁的活動とボランティア・NPO・市民活動とのクロス集計
2012年東京都9区調査地区別の比較 (%)

		ボランティア・NPO・市民活動		
		参加なし	参加あり	合計
地縁的活動	参加なし	下町 66.2 都心 60.7 山手 67.6	下町 4.4 都心 6.0 山手 7.8	下町 70.6 都心 66.7 山手 75.4
	参加あり	下町 17.6 都心 17.3 山手 13.4	下町 11.8 都心 16.0 山手 11.2	下町 29.4 都心 33.3 山手 24.6
	合計	下町 83.8 都心 78.0 山手 81.0	下町 16.2 都心 22.0 山手 19.0	100

／33.3=0.481) と高い。また、山の手では両者の中間で四五・九% (同11.2/24.6=0.459) である。つまり、下町でも、都心でも、ボランティア・NPO活動の基盤は地縁的活動にあるが、下町では地縁的活動への参加者でも、ボランティア・NPO活動へ参加しない者も多い。この結果、ボランティア・NPO活動への参加率は、都心で二二%と高く、下町では一六・二%にとどまり、都心と山の手(二九・〇%)と比較すると、ボランティア・NPO活動への参加は低調である。

まとめ

本稿では、二〇一二年に東京都の九区の住民を対象に実施した『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』の概要とその結果を筆者が二〇一〇年に実施した全国調査と比較した。東京都の社会関係資本は、全国と比較すると、その構成要素のほとんどで、全国の水準を下回っている。特に、近所の人々への信頼やつきあいは希薄である。しかし、社会全般への一般的信頼、職場の同僚への信頼やつきあい、友人知人への信頼やつきあいなどはほぼ全国と同水準にあり、東京では居住する近

隣よりも、むしろ職場や友人知人との関係が中心であることが分かる。地縁的活動への参加率も全国を大幅に下回っている。東京の社会関係資本は地域密着型ではない。

しかし、社会関係資本と健康関連の回答結果との間の相関は、東京都調査でも、全国調査と同様、統計的に有意な相関がみられ、特に心の健康は社会関係資本と密接に関連していることが確認された。従来わが国における都道府県別データによる集計値による実証研究では、欧米における実証研究結果と異なり、一般的信頼の説明力が弱いとされてきたが、二〇一〇年全国調査では、個票データによる性別、学歴、年収を制御した偏相関分析で、一般的信頼はほとんどの調査対象項目との間に統計的に有意な相関があった。今回の東京都調査でも、全国調査と同様に、一般的信頼は主観的健康、抑うつ度、健康や収入に関する心配度などとの相関が確認された。

このほか、全国調査では地縁的活動に参加している者の半数近くがボランティア・NPO・市民活動にも参加しており、逆にボランティア・NPO・市民活動の参加者の八割以上が地縁的活動にも参加していたが、参加率は低いものの東京都調査でも同様の傾向が確認された。

すなわち、東京でもボランティア・NPOなどの活動をしている者のほぼ七割は地縁的活動にも参加しており、地縁的活動がボランティア・NPO活動の基盤となっている状況がうかがわれる。

このほか、サンプル数が少なく母集団推計はできないが、東京都のなかでも、下町、都心、山の手の間では、社会関係資本の構成要素に大きな違いがみられることが確認された。

なお、本調査によるデータはさまざまな分析が可能であるが、本稿では紙幅の関係から、集計値の概要と、個票データによる相関分析のみを紹介した。より詳細な分析を今後実施していきたい。

- (1) 社会関係資本の定義は稲葉（二〇〇五、二〇〇八）を参照されたい。
- (2) ただし、三地区のサンプル数は下町と山の手がそれぞれ一五〇、都心が一五七であるのであくまで参考値にすぎない。
- (3) 本調査の調査原票を付属資料として本稿の最後に掲載しているのであわせて参照されたい。
- (4) 高齢者を対象とした一五項目短縮版。

(5) 一般的互酬性は社会全体を対象としており、特定化互酬性は特定のアクターを対象とした互酬性。挨拶を皆に返すのは一般的互酬性であり、挨拶をした者に挨拶を返すのは特定化互酬性。

(6) 本節で記述している主観的健康と抑うつ度に関する数値は欠損値を含めた総数を分母として算出しているため、欠損値を除いて算出している表7の数値よりも低い値となっている。

(7) 3-2節で記述している主観的健康と抑うつ度に関する数値は欠損値を含めた総数を分母として算出しているため、欠損値を除いて算出している表7の数値よりも低い値となっている。

参考文献

- 稲葉陽二 (二〇一一) 「暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査 二〇一〇年社会関係資本調査の概要」『政経研究』第四八巻、第一号、日本大学法学会 pp.107-130.
- 稲葉陽二編著 (二〇〇八) 序章「定年後のソーシャル・キャピタル」『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社、pp.11-22.
- 稲葉陽二 (二〇〇五) 「ソーシャル・キャピタルの経済的含意—心の外部性とう向き合うか」『計画行政』日本計画行政学会、第二八巻四号、pp.17-22.

Putnam, R. D. (2000), *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, Simon and Schuster.

謝辞

本調査は平成二四年度厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）「健康の社会的決定要因に関する研究（研究代表者：尾島俊之）」を受けて実施した。助成を賜った厚生労働省に篤く御礼申し上げたい。また、本稿の資料は緒方淳子、草ヶ谷明日美の両氏に作成していただいた。

暮らしの安心・信頼・社会参加 に関するアンケート調査票

本調査は、皆さんの、暮らしの安心・信頼・社会参加に関するものです。

＜実施＞ 日本大学法学部 稲葉陽二研究室

- ・ご回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。
- ・ご回答は、大部分が、あてはまるものの番号に○をつけていただく形式です。
- ・ご回答は、すべて個人のお名前と切り離して統計的に処理しますので、内容が外部にもれることは決してありません。
- ・ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、9月23日（日）までにご投函ください。
- ・ご届かいたいただいた方には、後日、お礼に図書カード（500円分）をお送りいたします。ご回答の有無は、調査票の右上の整理番号で管理しておりますので、調査票にお名前やご住所をご記入いただく必要はありません（なお、住所変更があった場合は、調査票上部余白に新住所のご記入をお願いします）。
- ・ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

アンケートの内容に関するお問い合わせ

日本大学法学部稲葉陽二研究室

電話：

1. 他人への信頼等について

1-（1）あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか、それとも信頼出来ないと思いますか。あなたの考え方に近いと思うレベルの数字を1つ選び、その数字に○印をつけてください。

1. ほとんど人は信頼できる	2	3	4	5. 両者の中間	6	7	8.	9.	10. わかたらない
	1	2	3	4	5	6	7	8	9

1-（2）それでは、「旅先」や「県知らぬ土地」で出会った人に対してはいかがでしょう？

1. ほとんど人は信頼できる	2	3	4.	5. 両者の中間	6	7	8.	9.	10. わかたらない
	1	2	3	4	5	6	7	8	9

1-（3）あなたは、人を助ければ、いずれその人から助けられるかと思うますか、あてはまる数字に○印をつけてください。

1. そう思う 2.どちらともいえない 3. そうは思わない

1-（4）あなたは、人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれるように世の中はできている、と思いますか、あてはまる数字に○印をつけてください。

1. そう思う 2. どちらともいえない 3. そうは思わない

2. 日常的なつきあひについて

2-（1）あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあひをされていますか、①と②について、あてはまるものを1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。

①つきあひの程度

1. 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力あっている人もいる
2. 日常的に立ち話しをする程度のつきあひは、している
3. あいさつ程度の顔見限のつきあひしかしていない
4. つきあひは全くしていない

②つきあっている人の数

1. 近所のかなり多くの人と面識・交流がある（概ね20人以上）
2. ある程度の人との面識・交流がある（概ね5～19人）
3. 近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある（概ね4人以下）
4. 隣の人だけがたれかも知らない

2- (2) 以下の①から③のそれぞれについて、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをしていきますか、またその手段は主にどれですか、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、その数字に○印をつけてください。

①友人・知人とのつきあい（学校や職場以外で）

1. 日常的にある	（毎日～週に数回程度）
2. ある程度頻繁にある	（週に1回～月に数回程度）
3. ときどきある	（月に1回～年に数回程度）
4. めったにない	（年に1回～数年に1回程度）
5. 全くない（もしくは友人・知人はいない）	

②職場・親類とのつきあい

1. 日常的にある	（毎日～週に数回程度）
2. ある程度頻繁にある	（週に1回～月に数回程度）
3. ときどきある	（月に1回～年に数回程度）
4. めったにない	（年に1回～数年に1回程度）
5. 全くない（もしくは親戚・親類はいない）	

③職場の同僚とのつきあい（職場以外で）

1. 日常的にある	（毎日～週に数回程度）
2. ある程度頻繁にある	（週に1回～月に数回程度）
3. ときどきある	（月に1回～年に数回程度）
4. めったにない	（年に1回～数年に1回程度）
5. 全くない（もしくは同僚はいない）	

3. 地域での活動状況についてお伺いします

あなたは自身の、地域における活動状況についてお聞かせします。

①あなたは現在、下表のAからDのような活動をされていますか、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、○印をつけてください。

	A. 地域的な活動 （自治会、町内会、隣人会、老人会、福祉会、子ども会等）	B. スポーツ・趣味・娯楽活動 （各種スポーツ、芸術、文化活動、生涯学習等）	C. ボランティア・NPO・市民活動 （まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、ボランティア相談、環境・防災・環境、国際協力、提言活動など）	D. その他の団体・活動 （商工会・業種組合、宗教、政治など）
ア. 年に数回程度活動	ア	ア	ア	ア
イ. 月に1日程度	イ	イ	イ	イ
ウ. 月に2～3日程度	ウ	ウ	ウ	ウ
エ. 週に1回程度	エ	エ	エ	エ
オ. 週に2～3日	オ	オ	オ	オ
カ. 週に4日以上	カ	カ	カ	カ
キ. 活動していない	キ	キ	キ	キ

※A～Dすべて「キ」を選択していない方は5頁の4- (1) にお進みください

②「仲間」A. 地域的な活動で「ア～カ」と答えた、地域的な活動をしている方に）
あなたが参加されている地域的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団・子ども会等）についてお伺いします。

そこには色々な性別や年齢、職種の人が参加していますか、あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

1. さまざまの人が参加している
2. だいたい似た感じの人が参加している

③「仲間」B. スポーツ・趣味・娯楽活動で「ア～カ」と答えた、スポーツ・趣味・娯楽活動をしている方に）
あなたが参加されているスポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習等）についてお伺いします。

そこには色々な性別や年齢、職種の人が参加していますか、あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

1. さまざまの人が参加している
2. だいたい似た感じの人が参加している

④「仲間」C. ボランティア・NPO・市民活動で「ア～カ」と答えた、ボランティア・NPO・市民活動をしている方に）
あなたが参加されているボランティア・NPO・市民活動（まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、ボランティア指導、美化、防災・防災、環境、国際協力、提言活動など）についてお伺いします。

そこには色々な性別や年齢、職種の人が参加していますか、あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

1. さまざまの人が参加している
2. だいたい似た感じの人が参加している

⑤「仲間」D. その他の団体・活動で「ア～カ」と答えた、その他の団体・活動をしている方に）
あなたが参加されているその他の団体活動（商工会・業種組合、宗教、政治等）についてお伺いします。

そこには色々な性別や年齢、職種の人が参加していますか、あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

1. さまざまの人が参加している
2. だいたい似た感じの人が参加している

4. 全員の方へご自身の生活についてお伺いします

4-（1）あなたは、現在のご自身の生活に満足していますか。あてはまるものを1つだけ選び、その数字に○印をつけてください。

1. 非常に満足している 2. 満足している 3. どちらともいえない
4. やや不満足である 5. 不満足である

4-（2）あなたは、日常生活を送るにあたって、問題や心配ごとがありますか。

以下に挙げる①から⑧について、「1. かなりの心配」から「5. 全く心配でない」までの5段階からあてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、○印をつけてください。

	1. かなりの心配	2. やや心配	3. どちらともいえない	4. あまり心配でない	5. 全く心配でない
①ご自分の健康・身体状況	1	2	3	4	5
②老後の自分の世話	1	2	3	4	5
③ご家族の健康	1	2	3	4	5
④養老（高齢者）の世話や介護	1	2	3	4	5
⑤孫や甥の子どもの子育て	1	2	3	4	5
⑥子や孫のシつけや教育	1	2	3	4	5
⑦失業やリストラ	1	2	3	4	5
⑧年収や家計	1	2	3	4	5
⑨仕事上のストレス	1	2	3	4	5
⑩定年後の人生設計	1	2	3	4	5
⑪職業しや就職	1	2	3	4	5
⑫家庭内の人間関係	1	2	3	4	5
⑬近隣での人間関係	1	2	3	4	5
⑭近隣での住環境	1	2	3	4	5
⑮地域での非行や犯罪	1	2	3	4	5
⑯自分の将来	1	2	3	4	5
⑰生活上の孤立	1	2	3	4	5
⑱その他	1	2	3	4	5

4-（3）前問（2）でお答えいただいたような日常生活の問題や心配ごとについて、あなたは、相談した人頼ったりする人や組織がありますか。

以下に挙げる①から⑦について、「1. 大いに頼りになる」から「5. 全く頼りにならない」までの5段階からそれぞれ1つずつ選び、○印をつけてください。

	1. 大いに頼りになる	2. ある程度頼りになる	3. どちらともいえない	4. あまり頼りにできない	5. 全く頼りにできない
①市役所・市庁役場等	1	2	3	4	5
②学校、病院等の公的機関等	1	2	3	4	5
③警察や交番等	1	2	3	4	5
④地域の団体（自治会等の地域団体）	1	2	3	4	5
⑤地域の団体（市庁・市民団体のほか）	1	2	3	4	5
⑥勤務先（会社等）	1	2	3	4	5
⑦近所の人々	1	2	3	4	5
⑧家族	1	2	3	4	5
⑨親戚	1	2	3	4	5
⑩友人・知人	1	2	3	4	5
⑪職場の同僚	1	2	3	4	5

4-（4）あなたは、普段ご自分で健康だと思いますか。

次の1から4の中から、あてはまる番号を1つだけ選び、○印をつけてください。

1. とても健康だ 2. まあ健康な方だ 3. あまり健康でない 4. 健康ではない

4-(5) 以下に挙げる①から⑩の質問について、この1週間のことを考えながら「はい」「いいえ」でお答えください。

① 自分の生活に満足していますか。	1. はい	2. いいえ
② これまでやってきたことや、興味のあったことの多くを、最近やめてしまいましたか。	1. はい	2. いいえ
③ 自分の人生は好きなものだと感じますか。	1. はい	2. いいえ
④ 退屈だと感じることが、よくありますか。	1. はい	2. いいえ
⑤ 普段は、気分がよいほうですか。	1. はい	2. いいえ
⑥ 自分に何か悪いことが起こるかもわからない、という不安がありますか。	1. はい	2. いいえ
⑦ あなたはいつも幸せだと感じていますか。	1. はい	2. いいえ
⑧ 自分が無意味だと感じることがよくありますか。	1. はい	2. いいえ
⑨ 外に出て新しい物事をするより、家の中にいる方が好きですか。	1. はい	2. いいえ
⑩ 他の人に比べて、記憶力が落ちたと感じますか。	1. はい	2. いいえ
⑪ いま生きていることは、すばらしいことだと思いますか。	1. はい	2. いいえ
⑫ 自分の現在の状態は、まったく面白いものだと感じますか。	1. はい	2. いいえ
⑬ 自分は、活かに落ちあふれていると感じますか。	1. はい	2. いいえ
⑭ 今の自分の状態は、希望のないものだと感じますか。	1. はい	2. いいえ
⑮ 他の人は自分より、恵まれた生活をしていると思いますか。	1. はい	2. いいえ

5. 全員の方へ 寄付・募金活動についてお伺いします

5-(1) あなたは、この1年間(2011年9月～2012年8月)に現金もしくは現物による寄付活動をされましたか。以下に挙げる(ア)から(ウ)までのそれぞれの活動について、あなたはやるものすべてに、○印をつけてください。

寄付先の活動	1. 金額に よる寄付をした	2. 現物に よる寄付をした	3. 寄付は していません
(ア) 各種募金 例：赤い羽根募金(10月)、歳末助け合い運動(12月)、日本赤十字の寄付、赤十字青年会(02月)ががいの寄付、日本赤十字のボランティア活動(03月)、ボランティア活動推進機構(緑の羽根)ボランティアネットワークを運営した寄付、つどいのつたに設置されている各種募金箱等	1	2	3
(イ) 健康や医療サービスに関与した活動 例：車椅子の世帯、献血、入館者の受け相手等 高齢者・障害者対象とした活動 例：高齢者の白物物まじりの手作り「シフォン」販売、高齢者の高齢者安楽、手芸、合唱、音楽大会等、障害者の社会参加の協力等	1	2	3
(ウ) 子ども・教育を対象とした活動 例：教育参観、子ども会の世帯、子育て支援、電話相談、子ども安全充てる等 スポーツ・文化・芸術に関する活動 例：スポーツ参観等、参加させる、参加者招待など、文化財の保護、図書館への本の贈贈など	1	2	3
(エ) まちづくりのための活動 例：道路や公園の清掃、まちの景観保全、道路のUVコーティング、まちの活性化、地元のお祭りなど 環境保全のための活動 例：野鳥の観察、植林・種樹、リサイクル、ごみ削減、環境美化、省エネなど 安全な生活のための活動 例：防犯、防犯、交通安全、被災者への募金や救援物資等 国際協力のための活動 例：途上国支援、HLVに関与する活動等	1	2	3
(カ) 国や地方公共団体	1	2	3
(キ) 宗教団体	1	2	3
(ク) その他の団体 (具体的に記入ください)	1	2	3

5-(2) この1年間(2011年9月～2012年8月)に、どれくらいの現金もしくは現物による寄付・募金活動をされましたか。現物によるものは相当額に換算し、1年間の総額として、以下からあてはまる番号を1つだけ選り、○印をつけてください。

1. 100円未満
2. 100円～1,000円未満
3. 1,000円～5,000円未満
4. 5,000円～1万円未満
5. 1万円～5万円未満
6. 5万円～10万円未満
7. 10万円以上
8. 寄付・募金はしていない

7-(10) 主として、あなたの世帯を経済的に支えている方はどなたですか。……

1. あなたご自身 2. あなた以外のご家族の方 3. その他

7-(11) ご家族全額をあわせ、去年1年間の収入(ボーナス含む、納税分)をお答えください。

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 200万円未満 | 5. 800万円～1,000万円未満 |
| 2. 200万円～400万円未満 | 6. 1,000万円～1,200万円未満 |
| 3. 400万円～600万円未満 | 7. 1,200万円以上 |
| 4. 600万円～800万円未満 | 8. わからない |

ご協力ありがとうございました。